

徳島大学MD-PhDコース出身の基礎・臨床研究医



徳島大学
AWAサポートセンター
准教授
石澤 有紀 先生

1999年徳島大学医学科入学
2003年大学院進学
2006年医学博士
2008年医学科卒業
動脈硬化の発症機序解明の研究に従事。出産育児と専業主婦生活を経て、2009年より徳島大学病院初期研修医。2011年徳島大学薬理学助教、2013年米国ロチェスター大学Research fellow、2017年徳島大学薬理学講師を経て2018年より現職。男女共同参画推進を使命に女性研究者を支援しつつ、自らも薬理学研究を継続中。



徳島大学大学院
医歯薬学研究所
生化学分野 准教授
坂根 亜由子 先生

1999年徳島大学医学科入学
2003年大学院進学
2006年医学博士
2008年医学科卒業
神経伝達物質の放出制御機構の研究に従事。2008年に医師免許取得後、徳島大学大学院分子病態学分野助教を経て、2017年より現職。集团的細胞運動の制御機構について理化学研究所、医薬基盤健康栄養研究所、大阪大学との異分野融合研究を展開。現在は光科学と医学・生物学の融合研究を模索中。



米国カリフォルニア大学
サンフランシスコ校
脳神経外科へ留学中
荻野 広和 先生

2001年徳島大学医学科入学
2005年大学院進学
2008年医学博士
2010年医学科卒業
肺癌遠隔転移の分子機構の研究に従事。聖路加国際病院初期研修医、チーフレジデントを経て、徳島大学病院呼吸器・膠原病内科助教となり、臨床と並行して腫瘍免疫の基礎研究と肺癌の臨床研究に従事。脳腫瘍に対する新規免疫療法確立を目指し、2019年より留学。総合内科専門医、呼吸器専門医、がん薬物療法専門医。



徳島大学病院
地域総合医療学分野
特任助教
三橋 惇志 先生

2007年徳島大学医学科入学
2011年大学院進学
2014年医学博士
2016年医学科卒業
肺癌進展における肺サーファクト蛋白機能の解析、腫瘍血管新生を標的とした治療耐性化の研究に従事。がん感染症センター都立駒込病院初期研修医、徳島大学病院呼吸器・膠原病内科医員を経て、2019年より現職。臨床と並行し、肺癌に対する新規免疫複合療法の確立や治療効果予測バイオマーカーの同定に向けて腫瘍微小環境の研究に従事。

基礎研究医・臨床研究医として四国から世界へ発信!

徳島大学医学部医学科 総合型選抜

「四国定着研究医型」

本総合型選抜は、四国地区4県の高等学校の現役生・既卒生(卒業後1年以内)の方を対象として募集を行います。
一般選抜・前期、及び学校推薦型選抜Ⅱ(推薦要件有)は、本学科のアドミッション・ポリシーを理解した入学希望者の方を対象として全国から広く募集を行います。

徳島大学
TOKUSHIMA UNIVERSITY
大学(学部)受験生サイト・APナビ

APナビについて インターネット出願 アクセス・マップ 徳島大学HP

海外から
留学する方

資料請求
デジタルパンフ

『研究医』になろう！

HOME・Tokudai PICK UP (教育・研究・入試などの紹介)・『研究医』になろう！

医療統合型キャンパスを有する徳島大学医学部 (順に「医学基礎A棟」「医歯薬学共同利用棟」「徳島大学病院」)

受験生キーワード：
研究医、基礎研究医、臨床研究医、大学院、MD-PhDコース

詳しくは、下記URLをご参照ください。

URL : <https://www.tokushima-u.ac.jp/apnavi/pickup/PS.html>



2次元コード

医学部医学科総合型選抜 (大学入学共通テストを課す)

「四国定着研究医型」

※アドミッション・ポリシー、並びに総合型選抜の詳細は入学者選抜要項を必ず確認してください

総合型選抜の概要

募集人員：8名 四国各県受け入れ人員の目安・各県2名

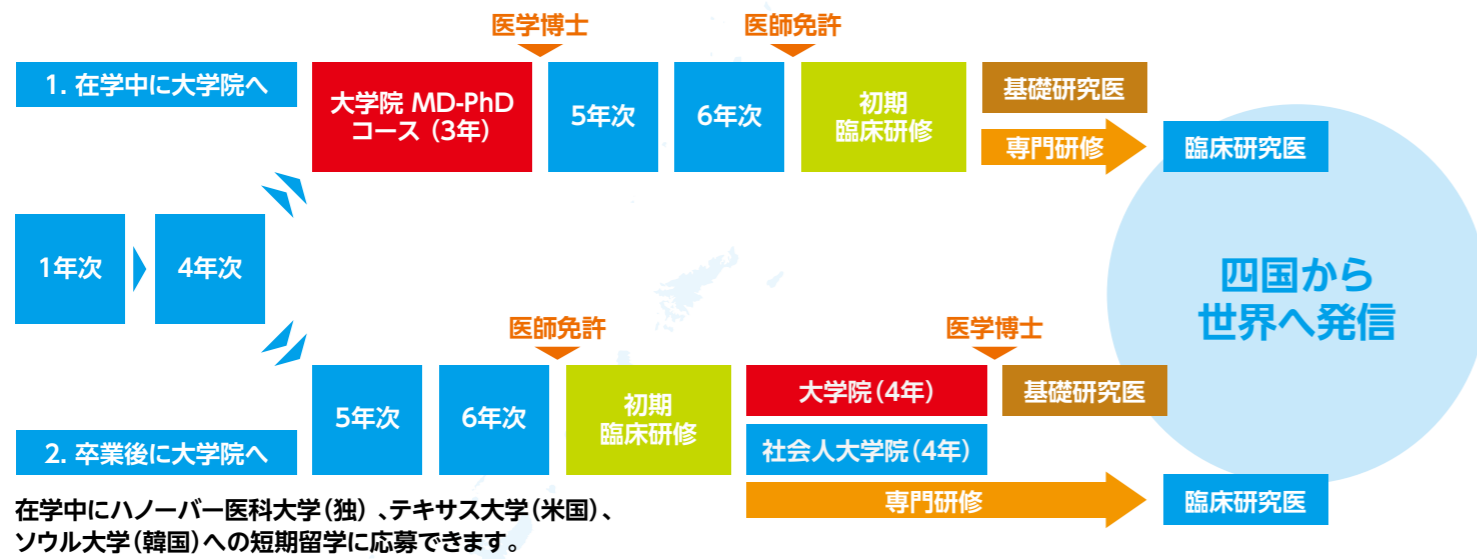
出願資格 ※抜粋

1. 四国地区4県の高等学校の現役生・既卒生(卒後1年以内)
2. 徳島大学大学院医科学教育部において大学院進学を確約
3. 徳島大学病院または徳島大学が指定する主要基幹病院で2年間の初期臨床研修を確約
4. 調査書全体の学習成績の状況が4.3以上

選抜方法等 ※抜粋

1. 第1次選考(書類審査)
志望理由書、活動報告書、調査書、確約書
2. 第2次選考
総合討論(小論文+集団討論等)、個人面接
3. 大学入学共通テストの成績(成績基準有)

入学から大学院進学そして研究医へ <選べる二つの大学院>



在学中にハノーバー医科大学(独)、テキサス大学(米国)、ソウル大学(韓国)への短期留学に応募できます。

大学院とは?

徳島大学大学院案内 http://www.tokushima-u.ac.jp/med/graduate_school/

大学院の授業を履修し、研究結果を博士論文として提出すると医学博士が授与されます。大学院で受ける教育と研究従事の結果、臨床研究や基礎研究を行う際に重要なリサーチマインドや語学力、情報収集力、情報発信力など、研究医として必要な基本的な能力が養成されます。

徳島大学医学部がある蔵本キャンパスには病院、歯学部、薬学部のほか、「先端酵素学研究所」が設置されており、幅広い大学院教育を受けることが可能です。また、基礎系分野と臨床系分野が学際的に研究連携を深め、基礎から臨床へ、臨床から基礎への研究の展開と応用を重視する中で高度先端医療の開発と実践を目指しています。



MD-PhDコース(在学中)とは?

徳島大学医学部 <http://www.tokushima-u.ac.jp/scme/MD-phD/>

MD-PhDコースは、医学科4年生修了時点で大学院に進み研究力を身につけ、医学博士(PhD)を取得した後、5年生に戻り医師の免許(MD)を目指す課程です。

通常のカリキュラムで大学院に進学すると、臨床業務と並行、あるいは臨床医としてのトレーニングを中断して研究に従事する必要がありますが、MD-PhDコース卒業者は、卒業キャリアの中断なく臨床トレーニングを継続することができます。また本コースでは早期に高度な研究に参加し、一定期間専念しますので、医学部卒業時にはすでに研究者としての素養を身につけることが可能です。



初期臨床研修とは?

徳島大学病院卒後臨床研修センター <https://www.tokudai-sotsugo.jp>

医師国家試験に合格すると、医師免許が交付され「医師」となりますが、診療に従事しようとする医師は2年以上の初期臨床研修が法律で義務づけられています。徳島大学病院には初期臨床研修を行うために卒後臨床研修センターが設置されており、徳島大学病院と県内、四国内のみならず全国にある研修病院とが連携し、基本的診療能力がしっかりと習得できるよう各病院の強みを活かした研修システムが提供されています。



徳島大学
医学部 医学科
生体防御医学分野 教授
安友 康二 先生
「基礎研究医」

基礎研究医に関する講義

病気の原因を解き明かし、
医学の新たな扉を開く「基礎研究医」



徳島大学
医学部 医学科 呼吸器・
膠原病内科学分野 教授
西岡 安彦 先生
「臨床研究医」

臨床研究医に関する講義

医療の最前線に立ちながら、
その進歩に貢献する「臨床研究医」



※2次元バーコードは「夢ナビ」にリンクします。

四国で臨床研究医として活躍する徳島大学卒業生



徳島赤十字病院
院長
後藤 哲也 先生

1981年徳島大学医学科卒業
1991年医学博士
徳島大学第一内科、大川総合病院内科を経て、1987年米国テネシー大学留学。1989年より徳島大学助手として骨髄腫を標的としたモノクロナル抗体の応用研究に従事。1992年米国オークリッジ国立研究所留学。徳島県農村健康管理センター、徳島県立中央病院を経て、1998年徳島赤十字病院内科(造血細胞移植チーム立ち上げ)。2019年より現職。血液専門医。



高知赤十字病院
院長
浜口 伸正 先生

1976年徳島大学医学科卒業
1983年医学博士
徳島大学第二外科、国立善通寺病院外科にて外科研修。1979年から徳島大学第二外科で研究に従事し、「術後呼吸管理および肺合併症防止対策としての気管内挿管の応用」にて学位取得。1983年高松赤十字病院呼吸器外科副部長、1988年高知赤十字病院外科部長、2010年副院長、2016年より現職。外科専門医、呼吸器外科専門医。



高知医療センター
形成外科 科長
原田 浩史 先生

1987年徳島大学医学科卒業
2000年医学博士
徳島大学病院皮膚科、徳島県立中央病院皮膚科、竹田総合病院外科、徳島赤十字病院形成外科で臨床に従事。1998年より徳島大学形成外科へ戻り、臨床と栄養学科との研究に従事。徳島赤十字病院形成外科への異動後も、臨床と糖尿病における皮膚微小循環障害の研究を継続。2004年高知市民病院形成外科、2005年より現職。形成外科専門医。



徳島大学大学院
医歯薬学研究所
地域呼吸器・総合内科学分野
特任教授
篠原 勉 先生

1988年徳島大学医学科卒業
1998年医学博士
徳島大学、大阪府立羽曳野病院、徳島県立中央病院、癌研究会がん化学療法センター基礎研究部および徳島赤十字病院に勤務。2006年より米国州立フロリダアトランティック大学客員准教授として抗酸菌感染症に関する研究に従事。2008年独立行政法人国立病院機構高知病院臨床研究部長、2019年より現職。JA高知病院を拠点として、教育・研究・診療を行っている。総合内科専門医、呼吸器専門医。



愛媛県立中央病院
臨床研修センター長、
外科部長
原田 雅光 先生

1982年徳島大学医学科卒業
1994年医学博士
徳島市民病院、愛媛県立中央病院での外科研修の後、1988年から徳島大学で消化器・肝胆膵外科の臨床と消化管ホルモン、ヒスタミンの研究に従事。1994年徳島大学医学部附属病院第1外科助手、2001年愛媛県立中央病院外科部長等を経て2017年より現職。外科専門医、消化器外科専門医、消化器病専門医、肝臓専門医。



四国中央病院
内科部長・
臨床研究センター長
埴淵 昌毅 先生

1993年徳島大学医学科卒業
1998年医学博士
徳島大学医学部附属病院での臨床研修と大学院での研究の後、国立療養所刀根山病院を経て、2001年徳島大学助手、2003年講師。2009年から米国M.D. Anderson Cancer Centerへ留学し、転移性脳腫瘍の研究に従事。2012年徳島大学呼吸器・膠原病内科学准教授、2017年より現職。総合内科専門医、呼吸器専門医、アレルギー専門医。



高松市病院事業管理者・
高松市立みんなの病院
院長
和田 大助 先生

1980年徳島大学医学科卒業
1987年医学博士
徳島大学第一外科、徳島市民病院、高知県佐川町立高北病院を経て、1988年徳島大学附属病院助手、1995年講師として、消化器外科の診療、教育、研究に従事。1996年徳島市民病院外科主任医長、2006年診療部長、2007年総括部長、2011年高松市民病院院長、2018年より現職。外科専門医、消化器外科専門医、消化器病専門医、肝臓専門医。



国立病院機構
四国こどもととなの
医療センター 病院長
横田 一郎 先生

1983年徳島大学医学科卒業
1993年医学博士
徳島大学小児科、香川小児病院を経て1986年より徳島大学小児科で研究開始。1989年に米国イェール大学へ留学し、脂肪酸代謝異常研究に従事。1992年に帰国後、講師を経て、2006年香川小児病院臨床研究部長、2019年より現職。小児科の新規生理活性物質の役割や糖尿病発症の分子遺伝学研究と内分泌診療に従事。小児科専門医、糖尿病専門医。